



1968
2



伊勢踊題目録

泉 復之部



更衣

錦花

新茶

新樹 付 桑木立

知花

杜 付 八

牡丹

芍薬

郭公

灌佛

葱棧

葵

善山椒

櫻

湯宗草

毬花

菫子

美人草

沖糸

虫

蚊

文虫

競子 付 是摘

端午 付 菖蒲

百合草

芍药

山梅

石竹 付 梅子

交草

山梳子

五月躑躅田植 一喜友

早松茸 五月雨付惟子

麻子 獸狩 短杖

夏月 一夜酒 少室

林鐘 湯殿行 富士詣

夏宵 水雞 鶉飼

鮎 沖鱈 鮎

花石榴 荒 菴子付小角豆

夕顔 海松 蓮

扇 蟬 祇園會

泉付清水 白雨 雲峯

納涼付暑氣 淨枝 雜復

伊勢頭卷第三

更衣

うさとしは諸肌ぬき衣 武治

うさとしは諸肌ぬき衣 立也

伊達しは諸肌ぬき衣衣 心計

甚く夏ハ一季ハかろ衣裁 隱章

錦ぬきてくみ此苦も給外律儀 三結

夏衣京もも田舎も 素明

くみりハそは落し名は良女 三好

今初まるやうくははを合庭 宗宣

一重なるの夏ハ移り花衣 永学

汗もみ布目よする衣のる 忠行

綿ぬふやきを以て衣の

之かつり又もまきしはん金糸の

細布のやうくまはき初は

ううてまきん布神のゆり格

上人もろ名解脫の衣の

仕らやうも昔よぢる衣の

いし人此賢者やほよ衣

餘花

あよふしあふし花を

衣も咲あふし二季を

卯月よあの花を

あ乃花を

宗

子重

重之

友昌

順孝

友巳

吉忠

信章

吉則

心斗

新茶

そ積あつむの

水魚あつて細代

二毒柄ハ極も

天目字治河仕込

新樹付 友木之

友山ハ有は

西露乃忍忘

縫梅はえハ

友也目よあ

角田河の香葉平塚

松一木ありけ

一口

玄琮

勝正

正伯

忠明

心斗

吉辰

三花

古塚よりなる木びり男松 可雷

鏡梅は松より強くなる木 松枝佳松 右栄

友つともみとゆき雪や里 重基

是よりけり山より夏木 武清

山梅は清く目新く夏木 資中

花津の八柄者あつた 政重

夏風をよめて多なる 吉則

風はひききりきほき 江戸幸氏 可重

花津枝のなき花丸の木 松枝樹あり内 天正

人々の様まゝい 依後山 玄佐

卯花

卯花は風のよ物 新信

力や急生なる 三好

くがけは 仍信

海りて 同

花や 書室

花印木 山田佳 五劫

杜若付一八

名と 江華津川 定利

く 友巳

名 後方池田 新信

あ 新信

火 上峯

深きまはしるやあつら歌可し 細和

江戸を天竺芝居能修者以 同天神の寺

神をやふふ一まのたの會 信達

一八のた九交のちりや 西村氏

一まの八交九交のた見 上

牡丹

是はたのをまといん 任古律田氏

花のまは鬼蛇のま 吉

百葉の名六百官のた乃王 同

花のまをいん 同

花のまを 吉則

花は枝やた 和斗

か 先次

花のま 善心

花のま 心斗

花のま 同

花のま 同

花のま 同

花のま 同

花のま 同

花のま 同

花のま 同

花よ宿花と見す牡丹牡丹 矢野

引くはる露の牡丹木葉香 賢中

見家や余実極見の程 一車

大をとりす牡丹おろし梅の 政安

ちんとある花枝花枝 上翠

園あり花や中おろし女目 玄仲

不後よ花枝中浮雲 吟雪

あめれや月おろし物 落策

咲たの玉おろし 久利

花の玉おろし 吉宅

玉露おろし 友巳

あめやおろし 秋凡

芍薬

芍薬おろし 古掌

手を及て打たおろし 偷雨

吹ぬは芍薬おろし 玄結

郭公

月よおろし 風松

一急やおろし 南貞

子規もおろし 武辰

六花七おろし 昌昊

郭公おろし 易心

かきハおろし 政安

夢よおろし 同

口て修る罪うもくする時を 因元
ぬきんが名系もくく人の名 三林

美濃縮葉山神社の方より

まろくきつのはをもちむ時を 湖春

文字よふ氏あるもわ紙 京在り 立玄

打はひくくあわ椎山郭云 伊氏

まろきむいふあゆめ時を 吉之

中やいふ河原此虫ハ郭云 守勝

教唱伊集院よま枝此枝の郭云 吟拾

猿がとに山家無意也子規 天清

獅五此一吼きたあぬ子規 種清

かきよろく木よまてある 子規 一念

唱書せんまきまらくある郭云 伯言 笑小

まろは中ヒシる此郭云 重春

坂屋の圓て吹か血よ唱時を 重田九住 次貞

まろぬ耳何をとせんほま 重田九住 惣常

朝鏡うぬせとく唱ぬ子規 武邦

子規よ唱てぬ此郭云 天彦

死あぬ時も唱事ハ一時を 同

誇よまよふあはきうあは あは 永学

かろれり名常ぬ先よ杜鶴 惟中

杜宇やう同のまよはる 江戶 因元

和音よりあはれり あはれ 江戶 志重

鏡よ此火音よあまき時を 長勝

是子奴の賄て、同

郭公太り、西武

伴あま、宗徳

初侘、友貞

あま、重昌

又昭、一頁

山姥、玄仲

あま、重増

足きり、信安

あま、三林

あま、高直

あま、細和

あま、宗徳

あま、同

あま、同

あま、宗徳

あま、同

あま、同

あま、宗徳

あま、同

あま、宗徳

あま、同

あつをかしきあしし此道の時 同

狐ほくもなきよたふまふ人 重為

一声や斗蓋村中時郭云 武新

吹きよる橋る木より釘部 加傳

かきよる橋る木より釘部 加重

一と急いそふゆきやほほき 石後氏 守昌

よよ声をかきし福ふを郭 同

村ぬいそやう阿いしらほほき 同

なまやふを田舎のほほき 松坂松山氏 三治

木玉やうは物おほくよ時 當也

かんらう月ほほき郭云 西村氏 守昌

むらう手あきるやまふ時 同

とらとんは音ききるや声 忍入

初音まの初い子観き 休也

鳥なほも実氣かきし時 右知

中絶の女よあひたりし 可直

そほききるし白初音 可直

加持よのほほき意あき 一の雪

いてわはきき福のり 昌方

見あけきき福のり 小翠

間日あきあき 末中島氏 隆流

音や入ぬ音ぬき 末吉

心地よ 友静

氣の 友静

後もり船とつた一夜の子規 自白

結衣衣代舟下の芝とらふ規

舟下乃芝とらふ規 貞室

郭么木あや山松ちま規 二林

約よつぬき規 同

あまのわや都は規 近藤

月よあせ規 元次

六む規 三友

一谷う名規 一頁

能谷う規 因元

蛸を規 松葉

舟あ規 松葉

舟の葉規 車武

馬規 同

孫も規 吉童

我方規 忠女

いと規 玄結

な規 同

子親規 重貞

世規 宗三

假名規 正弘

日光規 親信

筆山規 友昌

えまきそやみかく山ほひす 若

一もや長し袖を不ぬ帰 因元

行くと花やゆきほん郭云 成清

^{二見浦} 今よふ塔あひり郭云 吉則

夜もあはしく笑ふ時吉 ^{吉則} 吉昌

山彦は若くとも合せたまふ 仍信

若もぬ糸玉乃子郭云 同

えまきねの耳のあかき子祝 同

一丁お書ののりふ定地郭云 正清

村もたつ白ほろろむ時 ^{のり} 昌把

一若くは奥遠くは揚り郭云 勝定

揚りいと清は揚りほり ^{揚り} 重次

登らんやもやてまけ郭云 ^{揚り} 一出

吹くやま鳴り八百ほり ^{揚り} 一車

己まき地も下しき ^{揚り} 用久

哥よ後や村有か人揚り ^{揚り} 吉則

たふ花鳴りおひを ^{揚り} 孫明

かきる急よ知月八日 ^{揚り} 正賢

郭云耳よ棠くも ^{揚り} 清忠

時吉まの念力や通る ^{揚り} 同

まの毛ほそん ^{揚り} 燈の燭 ^{揚り} 若

鳴ぬおや甘泉殿の郭云 ^{揚り} 久利

常は流子祝を ^{揚り} ばく ^{揚り} 若

一者下下系はるる若手書 政次

寝耳も入や美皇御の妹御 同

若造子祝の若く待言とつ那 若任

一と名も吹く人毎姑とぶる書 武在

かきあはれ供や備ふ秋の書 吉宅

郭云まら待の作り春の書此 宗畔

姉りおくあを権杖の郭云 友巳

に流るよとけよ砥山此 同

吹ぬ月六はめ祝よたよ書 同

吾句よ古語とせよ書郭云 同

月よ晴わかまら秋あつ同書 吉盛

あのみ夜ハ杜能と性あつ水 同

灌佛

さけぬるや乞上奉皇御生 教教

山も座し勅さむる若手書 玄達

玉露の産湯あはれは生花 利光

権仏や整ふ此海人具志や下 吟権

秋遊む里か生まをこつ那の 授人

仏生舎ぬるはく人や勢玉操 盛也

系来ぬ人や宮有仏生舎 政次

生あつ物まや書は生舎 友巳

堂傳る花も仏生舎のつ那 政安

生まあふ宮書は志や下お世 書

恋樓

板乃自ひつ子かいらの那 吉辰

かきさらけ垣をもちふれ 依信

昔男捨てわおとれ極が 津倉田氏 有次

風は傳よまきく白ふら 政安

うのよれ常と自ぬれ 家業

葵

あきりより見ると後あは 徳住 利之

見ると人いらくして常 山本氏 貞次

ぬきつら花置人よ太刀 政安

ねもぬすは風はなま 真政

とふふふめくもま 同

足を宮よおしてま 同

まじ椒

まきりか 不知氏

おら 戸部氏 重忠

樽

平見 吉則

木 末保

法 仍信

花 吉任

いと 言れ

板 同

湯草

見ると 財賢

春の好鳥のあらしの生るる野
多岐名乃あらしの約の小鳥
人もたれぬ恨もあふれ
好之

球花

小鳥のあらしの約の小鳥
風よ流るる鞠の花をかくら
凡よとらんさふてまじり
多岐名乃あらしの約の小鳥
ありくとたは目よはくま
ほのあらしの約の小鳥
吹風は花よあらしの約の小鳥
わがさす花をてまじり
三後

雅は花よ付まはてまじり
花よあらしの約の小鳥
ま花も結い流つてまじり
花の露もあらしの約の小鳥
因元

菖子

花もあらしの約の小鳥
花よあらしの約の小鳥
菖子よ入の花をてまじり
加友

美人草

花よあらしの約の小鳥
花よあらしの約の小鳥
花よあらしの約の小鳥
花よあらしの約の小鳥
伊氏

常とはきくしよもあはれ木 成益

かきほは飛ハハはし常の種 本尊

あふちろくやく竹の常 二義

友虫の中ふいつつたふ 吉唐

かゆくか煮煮る飛軒 一味

やうは六流す火のこき 天任

月夜ふいせ入らし常 克の

一つ末もいさう物や 武忍

火事あつちもあはれ 昌次

いしあつちもあはれ 孫明

又十給何れ常 立也

神垣の肉ハあ火の常 立也

四辻よとまも常 立也

花あつち月や常 因元

あつちあつち 武形

常集く何も 末佐

新編の常 末佐

常飛石川 友昌

あかきと 光弘

難波江の常 木玉

月ハお常 宗畔

垣尻の光 宗畔

天人 宗畔

月夜を桃燈らしむる花
加傳

赤虫がわらわ井をこころを
心斗

美人あはるる常衣花遠星
西村氏
吉昌

灯を宵く八月花常衣の
西村氏
吉昌

梅姫の金指をこころ花常
助友

いまよりう花の下枝に花常
吉女

清光とみ流るる花常
古掌

こころ花常衣をこころ
政安

初管鹿久強く川舟を
同

こころ人や氣も流るる花常
武直

こころこころ花をこころ花常
井上氏
正守

夜の虫をこころ花常
克順

常衣の初管の鏡をこころ花常
仍信

月の花をこころ花常
同

花乃初管花小鹿をこころ
因元

花火を初管より初管
義孝

字流河たませんをこころ花常
口
口

忽然とこころ花常
喜山

上天下の常衣花もあつた
玄結

故をこころ花常衣の
了善

木常衣とこころ花常衣
了善

夜をこころ花常衣の
了善

かまけりてるとや清くの友貞

わの上よ釣う玉あるの目元

物とあるも何あ改らの三治

ふとあれあてりの孫明

氏のかまこと身の香昌

顔もろくひ付あは改の一貞

能く改れ血まはの政安

栞は改らるるの仍信

改のあを改の吟

改らるれ改の盛

改や人の細和

人乃を改の直政

く改改の玄昌

解つ改の玄理

生改の貞室

改の改の吟和

る改の志斗

人乃改の正則

協乃改の権清

け改の之次

わ改の改

う改の成伯

悔もあまはむ人蚊の音も形 人形 波辰

蚊の音もあまはむ人蚊の音も形 人形 波辰

まをむくはむあまはむ人蚊の音も形 人形 波辰

琥珀のくく塵の音を吸 吸音 上京

蚊柱の音もあまはむ人蚊の音も形 人形 波辰

人々くく蚊の音もあまはむ人蚊の音も形 人形 波辰

蚊の音もあまはむ人蚊の音も形 人形 波辰

蚊の音もあまはむ人蚊の音も形 人形 波辰

蚊の音もあまはむ人蚊の音も形 人形 波辰

蚊の音もあまはむ人蚊の音も形 人形 波辰

蚊の音もあまはむ人蚊の音も形 人形 波辰

蚊の音もあまはむ人蚊の音も形 人形 波辰

蚊の音もあまはむ人蚊の音も形 人形 波辰

蚊の音もあまはむ人蚊の音も形 人形 波辰

蚊の音もあまはむ人蚊の音も形 人形 波辰

蚊の音もあまはむ人蚊の音も形 人形 波辰

蚊の音もあまはむ人蚊の音も形 人形 波辰

蚊の音もあまはむ人蚊の音も形 人形 波辰

蚊の音もあまはむ人蚊の音も形 人形 波辰

蚊の音もあまはむ人蚊の音も形 人形 波辰

蚊の音もあまはむ人蚊の音も形 人形 波辰

競り付 是掃

あゆそののりたてりて

豊後大島 資正

くくくくくくくくくく

吉則

見物も目くくくくく

同

急かきも物乞にきく

如白

くくくくくくくくく

文昭

武をあらわすにきく

直政

見物久き誠誠誠

政安

秤あても誠誠誠

上翠

系引もくくくくく

仍信

舌強ちきりもく

易心

端午 付 菖蒲

惟もいふくくく

友貞

粽餅くくく一丸

安之

あつふ日と雷を鳴らす

風松

進よきとくくく

宗後

稚子腹よい

同

風もくくく

石原氏 守昌

君もくくく

孝元

むきもくくく

光正

柿もくくく

心斗

はり楊子

同

まも棟よ

真政

むきも持人の

忠知

門脇も

因元

男名名花く一三家紙 同

西白一希臨生花の路 武在

平地入かつて甲の昔修小 江戸 与多

とう也かたく神物行自ひ玉 善城 守老

物く部北まうあやめの花心 西 下

木こもありもうも昔浦の小 井上 志

昔浦まひひきるく 花 守

花あしのままも昔浦の 同

とも花ひけ石垣の昔浦 景 復

花あはく昔浦の花 政 安

のじはなつてるは地及昔 自 白

者あらむ昔の下も昔浦 細 和

花あらむ昔浦の花 三 林

五尺も花の昔浦の花 陰 房

昔浦の花 直 政

君ハ花向の昔浦 武 彩

目ままま 三 好

他もも昔浦の 玄 仲

花あらむ 清 心

花あらむ 正 定

牛車風よ 宗 德

花あらむ 三 好

雷火の沸えの松車百金

因

と効てらん福ももたの車

一燈

照加まぬ火あふまの物あし君

芳彦

根引も照ての如ゆり車ゆり

政安

まのく人を引ぬより車

因

松乃束らるる麻あしや麻

細心

左を右にわあんとあつた車ゆり

定重

風のまはゆりま揚るや花の露

好之

鬼とて名百もさうかきゆりの

正行

火坊のしほまほつて堂若はり

心平

風やうー引そられが車ゆり

因

花よ露揚るやまが車ゆり

一車

鬼ゆりをるる大なり木陰に

平清

とらぬやも山あふの車百金

宗弘

花乃情もあつたやまを陣

重因

みておぼろおをわたりゆり花凡

仍信

老人の心をまひりまへり

先よちるやほのすめ車ゆり

昌方

電若ゆりまへり人や地を照

正良

わて見ぬ花や下系が車ゆり

信能

露は又月とのをりり車ゆり

弘次

花ちるやめり花が影根ゆり

正直

若竹

親きいてるもあつた花ゆり

昌英

十六乃女平春後依り

と年七九うむるやふ代の男

本重

未重うそ目か竹姑子のあり

泉七七 藤原

敵とあるもやあひはち金ま

平清

元服はつ竹姑子の草袴

正朝

竹姑子のむと八若姑初

勝重

親の思まうら竹姑子並小

重正

弟へ立せはう竹乃るそう

教安

敵あゆふの親ま竹のま

武光

竹のこりや煮ても喰まぬ敵

吉任

若竹の子捨る敵は姑も

政安

生のひて世にけくや女子竹

女白

子や利是言の生るるま

重忠

親あひ吹笛竹のま

存的

竹姑子も人乃種うか

定信

青梅

実のうら小男のこら花のえ

二義

終り竹姑や乙は津

吉原

を信うかうるはの梅は師

永学

木の枝の纏木樹る梅は師

政安

一五乃まいもゆる梅は師

元貞

木前りようそあうそし梅は師

教安

室やまはく突ぬ梅は師

友貞

梓乃木の葉のすくすくは花の葉師 友巳

花の葉を一本の葉の葉師 賢中

あそはばは葉の葉師 好之

友木まは葉の葉師 心年

くもくは葉の葉師 加友

石竹付梅子

葉の葉の葉の葉師 友巳

花の葉の葉の葉師 宗徳

狐の葉の葉の葉師 善胤

かたしは葉の葉の葉師 氏重

金葉の葉の葉の葉師 言重

あそはばは葉の葉師 加信

笑てはは葉の葉師 友巳

おととしは葉の葉師 宗順

まをばは葉の葉師 吉長

百葉の葉の葉の葉師 目

風も葉の葉の葉師 正定

風の葉の葉の葉師 加友

梅子の葉の葉の葉師 是利佳家

梅子の葉の葉の葉師 重朝

梅子の葉の葉の葉師 疎信

梅子の葉の葉の葉師 世笑

一本の葉の葉の葉師 信真

梅子の葉の葉の葉師 宗畔

梅子の葉の葉の葉師 細心

胡蝶とふ花様をよもぎ 改安
雲をわやとせまらぬ 中村氏 吉辰

夜草

遠生れありや花のむね 大は見心院 西雲

さかよのふいり 重自

文雲のふり 玄仲

母の思ひ 此

思ふおのま 季吟

夜草の柏 武在

花をよ 景後

おみ 吉則

花の柏 信長

花よ 吉勝

水 吉重

わ 繁次

花 吉

ど 吉

花 吉

花 改

蛇 改安

花 同

花 重

花 定次

花 三好

時を志るや約種若くは心

心斗

風の鳴るをよるまゝの金砂

宗俊

山挽子

とありて今を呼ぶるは如雲

不及

口前へ花を吸きし如蝶

未在

加えて果て目の口前花は

吉彦

口前へ花をよるまゝ花は

友貞

とありて今を呼ぶるは如雲

改安

又月礮

花も心を如くは如雲

友貞

杜鰾花の如くは如雲

深真

田植

一万石の命を植ゑるは

克明

時を志るは如くは如雲

立也

とありて今を呼ぶるは如雲

友貞

足も心を如くは如雲

三好

とありて今を呼ぶるは如雲

徳展

佛田植をよるまゝは如雲

正光

植くは如くは如雲

安治

善友

佛は如くは如雲

善友

善友を田つは如くは如雲

善友

早松草

信吉を秋思れは如雲

乾宅

菊ふきの名二葉のちね草 名城 英信

西宮のちね草 名城 英信

五山やね草 名城 英信

又月を付梅の

阿くひしてふくまき 名城 英信

下福入日此目 名城 英信

又月を付梅の 名城 英信

平中ノ泉の 名城 英信

又月を付梅の 名城 英信

於此 名城 英信

又月を付梅の 名城 英信

又月を付梅の 名城 英信

又月を付梅の 名城 英信

又月を付梅の 名城 英信

又月を付梅の 名城 英信

又月を付梅の 名城 英信

又月を付梅の 名城 英信

又月を付梅の 名城 英信

又月を付梅の 名城 英信

又月を付梅の 名城 英信

又月を付梅の 名城 英信

又月を付梅の 名城 英信

又月を付梅の 名城 英信

惟子

是も若きなり蘇我種や引かたねり長年

かたひくよわつとさな加元かたひ家貞

いふふ海島まわん因元鳴け

庶子

くらりてととささ用久おや

そは多ふ武昭おや

毛とは又同おや

歎詞

志たわつ家貞おや

力よも三好おや

さし五郎おや

遠男友能おや

志交友おや

短歌

短歌も林盛おや

ゆ久頼おや

夏乃安治おや

下三好おや

夏乃上野おや

夜月

夏乃重國おや

雲同おや

好家仍信おや

秋さるもなつては月をまの 月 宣胤

秋の月をまの 月 親信

秋の月をまの 月 蝶子

秋の月をまの 月 瑞心

秋の月をまの 月 定清

秋の月をまの 月 賢正

秋の月をまの 月 卜女

秋の月をまの 月 宗徳

一巻

秋の月をまの 月 宗徳

秋の月をまの 月 宗徳

秋の月をまの 月 宗徳

秋の月をまの 月 宗徳

氷室

秋の月をまの 月 宗徳

秋の月をまの 月 宗徳

秋の月をまの 月 宗徳

秋の月をまの 月 宗徳

秋の月をまの 月 宗徳

秋の月をまの 月 宗徳

秋の月をまの 月 宗徳

秋の月をまの 月 宗徳

林錦

秋の月をまの 月 宗徳

まゝもまゝなるや林のひの き 下

あやをきほうぬ林の種のみ あ 虫

ほうをいを催もやし種 か 後

或すそし月次初會よ

人う勢の林の種や月のみ き 盛

林種の時もるふゆりてか き 朝

鳴るや林乃種のはは油 き 守

ゆめり

百日や木ありよもをゆめ き 風

欲あことさすも入しゆ き 伸

培離と種り園とゆめ き 勝

富士情

吾のこゝ一ぬり種る き 休

はらひ跡すた足も加り き 安

ゆめあしや村中河ても き 清

身とゆめあてうま き 昂

増鹿や東がきの富士 き 後

名考

合まれのいりう き 種

水難

ああひてあ熟や き 結

人も口叩く き 意

弓よむう き 周

人いさ き 子

あつたふり人戸やち鶴小 志

とこの百韻を逃加

この家代記口下り難小 成教

物さよあつた眼さすまをすま鶴 寺附 重昌

物綱

物さよあつた眼さすまをすま鶴 友巳

真と丸のむあ家祖ぐま小 政安

海火よりけら流きまをうのや小 智隆

ちひあ人いあまをくうたし小 昌把

猿まをねおやんくおま 正恒

鶴

盤石ハ鳥居を碎るも鶴の真 因石次氏 重次

吉野鶴。ちんくは又鶴 風松

このあつりや山吹の紫の鶴の鶴 志

新家より鶴をくう鳥子摘の 義山次氏 武純

ちひあ鶴や摘のぬえん鶴の味 音利

鶴つちやけ下りよ人い押の 加友

仲鶴

何あつり見すあを此仲鶴 風松

焚骨やそま火所此仲鶴 仍信

管塔やありあつたの仲鶴 同

鶴

こつてつち口焼く鶴の掃田 玄智

風とつてつち口焼く鶴の掃田 三信

扇の子とよみはなせうよな 結 三平
まぬくふ結ふあふる結ふ 結 仍信

花拓板

才のりまゝ知ぬまう 花拓板 三好
現人乃結うく 花拓板 三好
まふ結ふ 花拓板 三好
なまきう 花拓板 三好
あつ 花拓板 三好
火を灯す 花拓板 三好
花 花拓板 三好
ま 花拓板 三好
実を控 花拓板 三好

荒

瓢箪う 荒 三好
鳥羽 荒 三好
瓜 荒 三好
味 荒 三好
な 荒 三好
味 荒 三好
追 荒 三好
雁 荒 三好
ま 荒 三好

初あつちのりゆのゆのるる
同

娘荒の皮や小町ふれの果
内宮 定情

入ておす荒うかき甲絳
吉次

味よ又やうゆの荒
友昌

市よおはかともいぬる荒
細心

むさう男荒かやうあれ
交友

美人乃口あひまう一狗の尻
三花

さきものりよもも足色の狗の
良雅

漬物よ糟もとあや狗の尻
正亮

味ひやのとゆゆ乃狗の尻
立也

荒をく味いさつゆを流
古掌

于荒ゆぬのあやうし日思ぬ
政安

是も又ゆよ付くりうの荒
良祐

落ぬ名尻付流ゆの荒
政成

あまききをちまるや尻の文好
同

ひやうやねまう人狗の尻
武松

ゆりまらや舎人うり狗の尻
加友

日照る火耀乃名の三花
芳重

茄子葉をちまはほひや早小
良元

年よりてこなあるやもこ加
山田曾良氏 宗安

遠より執りてちま一は茄子
親信

是も上てゆらまのひの葉入
負宣

茄子まはまやち鼓う古鼓
友貞

茶入あつて松の葉葉の若子 小 武松

小茄子の枯るや是も又の 本 宗暉

一月おきや牛乃角さけ 本 重孝

神垣の殊教唐ふけ 粒 全勝

初ありよ天地よさけ 男 若店

空のたへえお十八小角 豆 三好

夕影

瓢箪ハ加やう新瑞は 豆 昌次

夕鳥乃宿や雪の尖あ 豆 三好

瓢箪と咲ふちり 豆 隠章

ゆふこ 豆 友巳

海松

海松めり 豆 東昌

海松く 豆 一入

丸 豆 友巳

蓮

瑞子 豆 信能

わて 豆 奥白

老 豆 久利

玉 豆 藻虫

か 豆 三好

あ 豆 如雲

道の實ハ八百花のゆきハ 武清

湯世の君ハいさなれきハ 晁

きき美のぞの字ハさうハ 盛勝

花の香ハさめよハ 政安

水ハさめよあやハ 重信

扇

あつけくハ穀成就ハ 田扇 定重

風ハ清もさハ 扇ハ 仍信

あつまハ 骨ハハ 扇ハ 美重

乞ハ 骨ハハ 扇ハ 坂順

親骨ハ扇ハハ 扇ハ 政安

扇ハ扇ハ扇ハハ 扇ハ 扇

扇ハ扇ハ扇ハハ 扇ハ 扇

扇ハ扇ハ扇ハハ 扇ハ 扇

扇ハ扇ハ扇ハハ 扇ハ 扇

扇ハ扇ハ扇ハハ 扇ハ 扇

扇ハ扇ハ扇ハハ 扇ハ 扇

扇ハ扇ハ扇ハハ 扇ハ 扇

扇ハ扇ハ扇ハハ 扇ハ 扇

扇ハ扇ハ扇ハハ 扇ハ 扇

扇ハ扇ハ扇ハハ 扇ハ 扇

扇ハ扇ハ扇ハハ 扇ハ 扇

涼風巾扇の意の昔なまり 福倉 露葉

月よたふ風もわづら扇 山田氏 春昌

珍ふきし海月も骨扇 山田氏 玄佐

伊勢まゝ扇は風好扇 山田氏 利

紙乃焼六暑まよき扇 松坂住 涼屋

流られしきくれ氣も扇 依中 涼屋

なとうちもものるくつ扇 依中 涼屋

孫ふよはうの女あき扇 依中 涼屋

涼ささるそらちの扇 依中 涼屋

柿園持まき扇 依中 涼屋

写し流れ花先扇 依中 涼屋

扇は風とわめて扇 依中 涼屋

長らく地と君とあは扇 依中 涼屋

籬骨乃扇細扇 依中 涼屋

曲本此扇 依中 涼屋

舟まゆくも扇 依中 涼屋

流らひて扇 依中 涼屋

月と扇 依中 涼屋

天の地紙 依中 涼屋

ほゆく扇 依中 涼屋

まけり扇 依中 涼屋

扇 依中 涼屋

伊勢編 六

蜂乃種平澤山くまの三太郎

信房

鳥の鳴く食の場や蜂の種

政安

耳の音よまけの蜂の時音

友仁

ももあしのみを蜂のまはる

上琴

花かませうくかきや蜂の

正行

蜂乃音やあを時音の通る

加傳

蜂衣織のうきやともものい

玄仲

蜂の種徳のほくく法師の

基直

筆写のうきやあはくたうの

教昌

音をゆきよくきり此物松の蜂

了長

蜂ぬよれ給るせをぬく衣

末任

春の鳴く大原の蜂の種

親信

ありあけ梵鐘といふ蜂の

因

名匂うやううまふる蜂の音

如雲

帆柱の蜂やかへて旋頭音

易心

とぬうやううもゆぬ蜂の

守腰

ち武乃名松やあは蜂の音

質中

ううううをも老木此蜂の音

上琴

美付乃蜂の鳴き釜の音

吉原

ぬきまはあはれか引蜂衣

秋風

船墨乃松や帆柱せし此音

古葺

小舟時音を移し心も蜂の

立也

蜂の種ハ音をく流す此音

安住

伊山寺の世々々々々々々々

松坂松氏 吉弘

山乃系物りて伊山寺の寺

江戸住 不卜

鼻をくくくくくくくくくく

教

坊の師やわんわんわんわん

因

牙を捨てて伊山寺の寺

昌利

伊山寺の世々々々々々々々

盛徳

伊山寺の世々々々々々々々

心校

伊山寺の世々々々々々々々

永氏

伊山寺の世々々々々々々々

政安

伊山寺の世々々々々々々々

吉慶

伊山寺

伊山寺の世々々々々々々々

順安

伊山寺の世々々々々々々々

同

伊山寺の世々々々々々々々

卜

伊山寺の世々々々々々々々

偷閑

伊山寺の世々々々々々々々

仍信

伊山寺の世々々々々々々々

勝

伊山寺の世々々々々々々々

正守

伊山寺の世々々々々々々々

清

伊山寺の世々々々々々々々

吉

伊山寺の世々々々々々々々

盛

泉付清水結

涼しきとてして涼しき泉の如

涼しきとてして涼しき泉の如 三信

力の汗もあがりて涼しき泉の如 仍信

暑くもあがりて涼しき泉の如 全無

一息をまて涼しき泉の如 重昌

涼しきとてして涼しき泉の如 友林

涼しきとてして涼しき泉の如 右知

白雨

夕ぐらしとて涼しき泉の如 口任

夕ぐらしとて涼しき泉の如 昌也

夕ぐらしとて涼しき泉の如 宇昌

夕ぐらしとて涼しき泉の如 二休

夕ぐらしとて涼しき泉の如 利之

夕ぐらしとて涼しき泉の如 吉武

夕ぐらしとて涼しき泉の如 直政

夕ぐらしとて涼しき泉の如 光政

夕ぐらしとて涼しき泉の如 同

夕ぐらしとて涼しき泉の如 仍信

夕ぐらしとて涼しき泉の如 宗安

夕ぐらしとて涼しき泉の如 宗安

夕ぐらしとて涼しき泉の如 宗安

夕立れ月利と云ふは痛松坂 後貞

夕立れ月利と云ふは痛松坂 友巳

夕立れ月利と云ふは痛松坂 昌次

雲の巻

雲は霞やいとそ地の紺鳩 一頁

月をわたりあうかゝる中の巻 貞

あやあやと下りて後河津の巻 政安

霞をとりあはるりや雲の巻 不智

中はあまの谷の流るる川 了心

仙の人もかゝるぬづらの歌 吉則

らるる雲はあまのやうつやうの巻 心義

月ハ紅霞と云ふは中の巻 吉任

納涼付暑氣

夕涼と四條の涼のうらな 吉則

松ハ涼と人のいもむら夕涼 立志

むやう海の涼もあまの巻 弘次

涼のうらなと涼木法の巻 克音

人精や風はあまの巻 吉之

涼風や涼安系世界の地 系俊

風筋や涼木法の巻 元辰

寛文七年の夏

別は汗かいたるやよま木の巻 友貞

あつき日はあまもあまの巻 不智

さあ肌ハさうね玉乃汗は涼 改安

ほほ比の露る居御の下涼 未吟

るの此也ふきくきし居る 盛歌

布引の滌きせあのははる 吟

人もせをさるもそ日者きこ 丹生 幸行

汗かくはしんま力たあつて 丹生 ふ切

喉ハかたよはハかたぬ者さ 丹生 恵迪

あ若も又山あ祓のあ若さ 如鐘

汗も乃測や味ふちる居る 丹生 久利

汗も乃測や味ふちる居る 丹生 志斗

顔も汗のさき拭や一とほり 一念

力の汗をさし抱かす居る 上吟

夏乃日也三夏いし居る如也 元真

夏乃日也三夏いし居る如也 元真

夏乃日也三夏いし居る如也 元真

夏乃日也三夏いし居る如也 元真

夏乃日也三夏いし居る如也 元真

夏乃日也三夏いし居る如也 元真

夏乃日也三夏いし居る如也 元真

夏乃日也三夏いし居る如也 元真

夏乃日也三夏いし居る如也 元真

夏乃日也三夏いし居る如也 元真

難夏

日焼せぬ田長や地水果敷 田

一夏のみまふもはほほ 吉長

夏も宿すはほほとん 友静

寺れをのまら枇杷の世 重方

ふもふたう園まは祿ふ 道秀

門前より名繕ふ祈信堂 末休

夏錦もあはれたも祈信堂 雲碩

まじきふぬとふはほほの 京俊

凡のまはまらるはれはれ 祐政

木宮より志もつねありや 宗順

蛇の糸も一夏結ふや寺の彩 政安

手向るや夏百日お寺の巻 資次

凡炉の葉は吹くも春人の世 細心

赤能をかくや田史の凡炉の 卜琴

芳ももや今もといふはれまの 重自

毒蛇とて人も喰わぬをい 重勝

扇のよきもかきぬたの凡 重親

わさうとや神の口おねた衣 弘妻

碎て目も糸もあがり麻地酒 岑亮

夏心乃京の氣茶茶入の如 末為

夏もあては狸祿入の胡蝶糸 上琴

土月干や桂の巻もて夏 ちま

虫干の束はくまうまの産産 重共

伊勢踊題目録

秋之部



初燂

一葉

七夕

蜻蛉

秋蚊

秋螢

好蝶

秋扇

文月

玉奈

燈籠

花火

踊

相撲

地蔵祭

殘暑

露

霧

稻妻

芭蕉

女郎花

菊

萩

荷付尾花

萩

木柱

朝顔

芙蓉

鶏爪花

好草

芋付薯蕷

野分

虫

畑田

麻

鴨

鶉

鴈

色弓

礎

月

名月付九月十三日

約迄

放生舎

初汐

涉雲葉

新酒付菖付菖付

名木抱

色葉

子葉

小葉鮎

瀧鮎

鮎

葺

重陽付菊

木實

伊勢遷文善秋

雜輝

伊勢物語卷第四

初秋

西条此秋を乞ふる柏外

三信

風のふれ誕生白く回る秋

書室

吹風巾子の裏多す秋始

米笑

秋口乃たれ息はくち初風

志色

和名や今初まきいぬる金比

可雲

輝立といふぬきりそ風乃口

野分付秋

輝や今初はけの三名葉風色

政安

子金付書をうへて中宮秋

親信

風袋中も秋立初の那

利

輝風やと初吹出れ金の性

古掌

秋風のうひまある中重は是

長松

清風や子先さくは秋好始

宗室

手引して風もまじり中重秋

正極

風此言中重もかまはしあり

加文

一葉

一葉よまじり中重は秋好始

伊氏

一葉乃紅雲山や中重乃海

増子

約あり一葉乃上の端乃末

重因

風よ一葉をまじり中重は秋

綱和

根ありり見ゆらむ人井と

永学

風穴をあくは一葉をまじり

志庭

解風八針あり柳のまじり

守昌

舞落家一葉を秋の露柿

三益

若ハ風の針乃は修る末柳

克重

相乃葉や木此の中は天狗

利

一葉のまじり風あけ日あり

政安

一葉や柳浦北をそく小紅

吉忠

一葉ハ秋まのせらる小紅

同

あけやまじりくは風車

活道

あま跡を髪ハ柳くくは

可入

七夕

星とほりあひさうあはれ

玄札

陰湯やと雲のうむの二星

飛入

人ハ神である眼乃二り

秋徳

よりあやうくふさぎをたれ二星

加茂

七夕のちまうて荒やま白草

三信

詩と云や夫婦二つの星奈

孝家

日向のやまともうむの二星

九順

遠も理めはの原野うや二星

吉重

圓らうせまがらん乃星此後

資中

さうふみれ糸やあつれ二星

兼後

こよひあややううされ流星

凡松

七夕もほほり乃るおれかた江氏

正好

七夕よかす七家の志あふ

武光

七夕れおちあつてこのあ

政安

七夕よ何ふふまふ人なれ三同

三同

七夕やまゝ恨れとの歌

正伯

星とあやも是も二の目七夕

素明

為雲れ縁あもあや二星

正光

光さす月や二星れを形毎

重因

のつけ晴てとちやあつれ信重

崇信

ぬのねや淑今志をら二星

仍信

天よあつ流控織女やめ七夕

友仁

七夕やま向乃前もあひと美

因元

星合八目と目かんさすあつれ

重昌

七夕のまきてさけや雲れ等

吉則

星とほりや縁ひのい成

上成

七夕や流ささる一物妻

上成

星の光のあゆまや星もさす

親徳

ささやか路でくさくさ女史星

安之

横雲や引つらむ星の二つ星

重信

普天の星あつらひるるる

泰成

七の月をなほほりやめ七夕

上吟

星は中宿よかき星の

賢次

と宵あつら星は思ひやと

蛸子

かき環や女史乃星はるる

御書

蜻蛉

蜻蛉もまじり記さすや合歌

教昌

らんほりは尾の飛ゆるる

友常

秋蚊

秋の蚊も秋の虫は情けな

三登

秋風や蚊柱をよめ秋は

良雅

秋の虫も秋の虫は情けな

三登

秋螢

立秋の虫も鹿の虫は情けな

友石

秋の虫も秋の虫は情けな

明林

とんてりやハ秋の虫は情けな

守昌

秋の虫も秋の虫は情けな

求笑

秋蟬

秋蟬の追加や蟬の連奇

有次

虫よ鳴るハ秋の虫は情けな

道安

秋扇

秋風の通をきくせんといふ

友静

扇をたたくて好の風

文巳

涼しき質をよめる扇外

三好

秋風や扇おぼろけをよめる

心守

玉をたれ風をいそぐる扇外

南貞

風袋いつたると玉を扇外

同

好ハ扇たたくらんきつる風外

順孝

扇を我とたためず秋外

三花

秋ハ扇中をくぐりし月外

治尚

うれ好ハやめ扇の朝外

豊元
友成

秋の日は風や扇よあそぶ風

津里
宗徳

そくくおの袖は流れて秋外

宗徳

好来てハ臆病風よ武右衛門

親信

夏の風たたくて好をよめる

定久

文月

園よ移文月ハ杉取紙外

永学

あそぶ文月の朝や夕外

一夏

代傳は筆をよめる文月外

同

明て名お浦の文月や朝外

二休

文月ハうきうきあり秋外

賢正

文月ハたたくは休へくま外

吉毫

涼やうきうきハ文月外

三林

文月ハ花や波をよめる

心美

やまハ好ハ好やうきうき外

立世

又月あけのや急め此床の山 山

朝日新す又月の破風窓 窓

縁入すのせや又月花 花

中ねと平は多き又月花 花

又月れ雲はきしや不夜 夜

服あけぬと月落海に 海

学四乃実るすて又月 月

又月れ世ぬ世や又月 月

玉奈

聖美やううほせの旅心 心

聖美もたううかき系奈 奈

俗人もと物や衣の玉ま 玉

香花より傳ふるは玉ま 玉

美り火やまを照し玉奈 奈

無人もろや思ひの玉奈 奈

うちまを圓子うてや玉 玉

ちのふたやほし眼の玉奈 奈

かり物や古歌は足玉奈 奈

あむひやまきうのまいつ つ

一汁や一まの生果は此飯 飯

ふふあり飯と向き玉奈 奈

又夢中傳く并草の飯 飯

白米やよらに帯や飯 飯

あむひや減法家の玉奈 奈

山

窓

花

花

夜

海

月

月

心

奈

奈

玉

玉

奈

奈

玉

奈

つ

飯

奈

飯

飯

奈

燈籠

めくりをきてるくわね燈籠

吉則

三家をとりり燈籠

昌方

とまきかきつあよしし紅桶灯

政安

あね名をえ揚灯籠

愚考

物詠まの月う揚灯籠

宗孝

比八今りんまてや揚灯籠

宝因

灯籠かからや有衣を替れ

因元

灯籠八門いひそと細糸

因

花火

是八家のみをきき家花火

玄勝

月夜うらわて揚花火

成重

竹の筒も八世をきき花火

仍信

いと見事な火もぬる柳水

正恒

春も花火ぬれぬまき花火

守常

自ふらちをさすうら花火

風松

ふのうら花火よあは花火

愚考

踊

小うらも花火をうら花火

友巳

踊念ひりとも花火

吉則

眠りますは八世の花火

三俊

場ありに花火のうら

二休

炎や又海原越て花火

政成

踊奇もいせ花のうら

何

足跡よりくはらふふまはれ
可

信濃の神のまゆり
友巳

小町をとりまをまふ
貴女

神志をいふまゝ
光弘

名もめてはりふ布や木を
吉辰

信濃の神のまゆり
政安

前髪はむの男の神を
正恒

紗の衣はまは神の神
西村
守昌

ゆり神をとりまは
善孝

之のくはらりまを
正勝
家昌

神子先志をま
正勝
家昌

見物も柏よりまを
乾宗

ゆり名をまは
無次

信濃の神のまゆり
宣房

弱くまを
宗徳

信濃の神のまゆり
之利

相模
先友

人をもまを
三俊

別をまを
文巳

木根をまを
安之

片情をまを
宣房

実をまを
昌徳

いさひかひささく下しはたお獲

一獲

名系中よ先すじ氣名室お

仍信

振斗と名給座の室お獲

同

うぬと名さそより奇お

一獲

力らるる力名共けつふすま

一獲

うけ若くさえつるゆきほい

音則

若くさそそお獲を居あり

同

衆のよさねお獲や懐座を

弘次

今おけよすぬい事すふ定

交貞

海宮て部も是そ亦る室お

英治

久方まそあそお獲やふ不

朋廣

けかきひてふすや繩の方お獲

同

口とんそえ勝虎室お獲小

貞良

文月のお獲はゆきお獲小

克朋

元結お獲よあお下れ事

信守

うそ社さゆもあおお獲

同

まけさるあさりかよ室お獲

重因

上野ま力中座乃室お獲

心計

日れら八中月お獲乃をぬ外

上野

まうさおかりるいすまひ外

一獲

名系えもかひおれお獲お

一車

相獲よん勝よ系よと勝車

音重

室よさるお獲や若勢方力

同

負てり中お獲よ十海の室お獲

英治

山のふもとにありては横やを白鳥山鳥 四支

勝てぬらぬありては横やを 賢延

信をぬ摸らうやぬ相れぬお獲 以安

地を為景

冬も冬も目をももふなり地を為 信信

春も春も目をももふなり地を為 以女

残暑

下戸ありて顔に砂ぬあつては 善持

空の行も衣も砂ぬあつては 宗也

露

玉ぬ多きゆきとては 宗也

露のたけの葉に露も多きゆきとては 昌次

露のたけの葉に露も多きゆきとては 宗也

露のたけの葉に露も多きゆきとては 宗也

露のたけの葉に露も多きゆきとては 宗也

成人の子をえまては 宗也

末の露も多きゆきとては 加友

雨粉

雨のたけの葉に雨も多きゆきとては 幸持

雨のたけの葉に雨も多きゆきとては 安治

雨のたけの葉に雨も多きゆきとては 貞良

雨のたけの葉に雨も多きゆきとては 吉任

雨のたけの葉に雨も多きゆきとては 又利

縮妻

縮妻は来ふよりのうらや
縮妻は化ちれなれや梨子の
縮妻や中よの衣のしじく

朔和
京後
未去
吉昌

芭蕉

凡そ露やなうもあふ芭蕉
露やうらや芭蕉のうらや
の声

重因
仍信

女郎花

虫と乳とをうけつる女
女郎花は人ふもあふ
名よのうらやうらや

仍信
因元
良雅

秋の若きむしをる女
の葉より花を咲きては
花も心とけよなむ女郎

政安
克重

男山の睡はまうらや
女郎花よき名月の影
風は清くは春男のあけ

三林
文昭
豊勝

蘭

名に負ては徳野をよる
見ゆらん乃是やうらや
あふ名のならんよ及き

元貞
三林
次厚

花移たうぬきかき
花移たうぬきかき
花移たうぬきかき

是者

只のゆめはるやまはるはる
露の玉の光はるはるはる

萩

そととつらつらつらつらつら
立秋つてふとまをれり萩

徳のゆきり人の新し

ね風のほろろ萩はるはる

薄 付屋花

あまのふかかりくもを花はる
赤い平車家乃る萩はる

わのくとあしはるはるはる

新編もあしはるはるはる

新編もあしはるはるはる

凡の事も入るはるはるはる

加味徳を新とあしはるはる

とあしはるはるはるはる

波さうらちを返すはるはる

萩

露の玉の光はるはるはる
花の玉の光はるはるはる

あつたそはるはるはるはる

解はるはるはるはるはる

萩はるはるはるはるはる

木柱

要

以安

蝶

糸

不

休

法

實

政

安

一

頁

之

利

女

已

未

田

正

守

長

保

信

也

花めすしく人助流法も
一重垣とて重なる花はけ
未定

朝朝

朝朝乃花よふ平日ゆり
朝魚乃ち戦院や花はを
政安
朝魚乃ち葉平乃言の極
武珍
是も又花陰ありや幸平
大後任
朝朝よこすしりり毒地外
一入

芙蓉

今と空元中元の日そ花は露
正定
垣と甘よ重れははゆり
吉之
花の風よはせればけい
仍信

雑頭花

叶の青きうらぬ鶏爪花
風松
咲かひを連理の鶏爪花
弘次
魚の打きやうた鶏爪花
卜琴

秋草

露よ月五い草を初草
因元
相模草露をあらる草
戸後氏
相模草如ふらうほ名ふ
明廣
相模草芝の破り此形ふ
俊貞
まらふ草お花乃楊方お獲草
弘秀
まらふ草をたて雲を相模草
宗吉
瓢箪乃けりは重なるつ
守昌

まえ風た吹もそ風約つ花
 けつ花心のりしを空網水
 ちのり人やまの夢なる太
 谷れと蒲菖花棚や孫あ
 有る大つら目かそふうり
 玉多やおそふもあつ一人
 玉露や鳥居の報系光
 蜘蛛のた袋よりかそ風系
 花の蝶はのひとゆやそ風
 好乃好やそふも強はそ風
 露よ移るふ押踏る屏風
 けのひはたぬふ所らそ屏風

以陈
 言重
 政安
 親信
 吉高
 風松
 資中
 因
 朋廣
 兼光
 宗經
 卜琴

山越の山越乃其玉座る名
 露の玉やそふもそそ師
 百風や花の三秋乃素師草
 みありそ花の火灯そ素師草
 次風よそやりしあそ仙の心
 天地毎そ露れれそそ風八回え
 咲たや地程そあゆんそ池
 確たにそあうそそそそそ
 花あそそ風もそ花も物たれい
 波う雷う目もそそそそそ
 花やそそ波れ白波そそそ

自求
 玄仲
 存的
 吉則
 因
 偷保
 吉重
 信融
 吉高
 武純
 友貞

辛付 暮著預

芋のあはまかきあつてりら きりら 因元

芋は子六味まて新よ煮抽汁 正永

葉のあはつもれあもれ乳房 あ 雲貞

うすいもや虫の留けり あ 徳政

は傍の虫よ煮てらあ名芋歌 加文

かりと流る金きりふつ竹芋 重因

あふりたりてらあやま芋 吉則

抽の名やとらあかろ山芋 氏全

野分 あ 吉則

あふり之雲ハ鎌流れ吐息ハ 吉則

強はふれ将菜たてれ好ふ あ 吉則

あ風あふりけり あ 仍信

あ保あやあふり あ 次貞

虫 あ 石室

月六保あやあふり あ 石室

あさ生のあやあふり あ 吉室

あはまにあやあふり あ 上原

あはまのあやあふり あ 昌把

あはま下下とつあ あ 政安

あはまの具を あ 冬吉

あはまのあやあふり あ 秋信

あはまのあやあふり あ 今勝

あはまのあやあふり あ 仍信

あはまのあやあふり あ 正則

人も又意とのを食

遣

秋のやうに切つてとて虫

信

虫の毒も耳に宿り秋風

法

秋田

八束穂やめておろし民酔

了山

百姓乃ほかり田家築後

膝章

実の多田八指を平ら落し

交貞

草の蔭を守も十方とてお

未綱

居る力を頼る柳をたよ

言重

美濃古石に田曲いし人并

重吉

為る秋六勃衣をうけ田の家

仍信

秋の由の事お山田に信記琴

因

刈搦下田のを紙けてしりゆ

正守

是も又田力と守れ信記小

全勝

弓を指小田に信記おは信記

吉三

百姓小田に信記おは信記

昌把

秋のなかりほのいおの秋小

武信

力と是を来万倍入田かお

言礼

去るは信記を頼りしり

言長

呪稲田つらも秋の屋長

政安

西風を流らうし頼りしり

守昌

あうらう思つた民に頼り

一友

及るる稲や田更の根を

言作

雄乃田北村もほろりたきき

山田氏 貞

秋もあともい寛実のり田

信貞

うかりまきんか田んちう

昌把

よきん人のほを先う原田

用久

麻

節よりよるハ柿より男麻

玄礼

ふりまきり男麻やまき

一十

犬ハ又のへぬま奇男麻

文貞

小町田れせゆ小貞麻

如

麻と持て奇談言の内納

政安

麻まてま志やといわ

成重

真麻あまきまき

武治

林まきし中花

吟哲

口節まきり志りま上子

哲家

鳴麻公麻大名の稻場

言因

えまきり場の麻やせ

交下

節まきりたきまき

交巳

鴨

突細をぬけて鴨さめ先

武立

わかきりて鴨なすくわ

吉辰

とれかゆわくく鴨鴨

活左

ふれ初の志よ目やき

長新

鶉

ちんちん鳴や鶉のあま

重

飛教を乃のふ月れひりし 張アハ 是信

た字をふし揃ふりれりけ 正定

空の空下や撰の棹添り 弘聖

為木に色又字やふくも状 仍候

平沙より飛て上るる鳥 儉味

月の影お照る月夜天邊 沢珠

ちし里を若松りよむるの奴 立也

弓矢をのゆるる月夜鳥の奴 友諒

みし飛鳥をなす橋十又字 永笑

鳥の寝やを毛をふくむる 言仲

宿れ又字同じを物う床の山 志竹

物給事の上りの鳥の又字 上琴

手取事三をいけり鳥の又 自良

雪が升飛るをやうふ月れ 親信

きりりも鳥をふくむる 同

凡まのつゆをかへり舞羽 吉任

三又矢て升る眼前の利烟 吉勝

月よ飛鳥をみん鳥二の 合勝

色名

大空よりつる小鳥は飛風 立結

色名 政安

吉れお色けり上るる鳥 順孝

早つら先八打たりけり 二休

松よ鳥をみん鳥 笑也

侍々海りまにち多甲

董

龜立ぬらふしすゝをり

三信

有れば流いゝも越や後河

久

砧

衣摺櫃や和室と心あて

友貞

のまゝくハ衣打を櫃に

政安

打ぬしはまうくまよふま

未濟

後芽生は礎の善名あふし

克明

打もぬらふくともくは

永学

志のいまもうてはいゝも

言量

しる事杖合はうそは

玄勝

海はもたれともうは

富原

るの機はひてちう

友利

志打はいつちれきう

清忠

塚河乃まられ礎も

宗弘

るまぬは打も妙く

因元

秋まぬは橋は

武彰

かすれは舌鼓打礎

吉則

ふあてはつちか

成伯

めつは橋より科

吉忠

独りてはうは

友昌

後河内國の時

一不審打る法の衣

武昭

打櫃を人か

吉則

志ろ折八甲山此の穂小 犬狩

月

云々月や角れ生たる物寄 政安

山凸凸トクの字ありや三ヶ月 同

天の戸秘守事あり云々月 元

路ありそ利の合ぬや云々月 極

多か同くも志ろトトク 利之

重止の志ろ力ありや云々月 同

天何よき光河新集云々月 薊

武翁野と破も筑も云々月 昔之

銭れ物乃け銘も云々月 笑

大い志ろありや云々月 三林

云々月や月家殿れ云々月 雲

云々月れありや云々月 光次

云々月云々月穂の穂云々月 薊

云々月や云々月山此穂 風竹

云々月や山此穂此穂 定重

云々月れ云々月云々月 云々

云々月な云々月云々月 云々

村中云々月云々月 素秀

押出の云々月云々月 板

雨雲の云々月云々月 宇昌

云々月云々月云々月 飛入

是も又ほ在りし月此船 正利

押度は逆櫓も此船此船 重昌

星に光りし月此船 永学

る物よの船も此船此船 仍信

見り人の言てやうし月此船 貫

みまをらも明て入る月此船 休也

机著るも甲の船も星月此船 宗祥

明る月此船此船 弘徳

定流川八月も浮舟此船 宗賢

入月の舟漕も世山の舟 忠行

月此船此船此船 貞受

此船此船此船 正定

月の船も此船此船 武彰

いも船も此船此船 友貞

一葉此船も此船此船 伊氏

人の船も此船此船 如笑

とめ此船も此船此船 志計

あま入船も此船此船 能政

山に入船も此船此船 友昌

月此船のまも此船此船 安治

八月重のまも此船此船 志忠

移る月も此船此船 重之

今下傳るも此船此船 利

月のまも此船此船 勝定

あき丸う甚る新法は月夜

大小のまよはせり月乃の

星雲を極まきい月乃の

枝きれ集する木はる月乃の

月の叙入のみ一其れ袋の

俱利伽羅の不動の叙入

海を月乃のいづの星乃の

空の波は流る月乃の

飛鳥は空の月乃の

あを月乃の空乃の

月乃の月乃の

月乃の乾坤や是る月乃の

月乃の海をたさる月乃の

うそり月乃の

月乃の二の丸を月乃の

あを月乃の

あを月乃の

あを月乃の

あを月乃の

あを月乃の

あを月乃の

あを月乃の

夢

夢

夢

夢

夢

夢

夢

夢

夢

夢

夢

夢

夢

夢

夢

夢

夢

夢

夢

夢

夢

夢

月は河の縁をひいて流る川 井内氏

月影は縁を系引帯をひいて星 宗光

さうりて月影は入法山 三友

剣星は月影は其乃根山 政榮

西山は月影は此あつち山 俊英

松の枝は月影は山は此れ並 久利

影あつてかつて真月影の 友雪

風よめく方おんまの月影 玄仲

かろく新照をいふ月影並 長

十累もさうせ路は月影の並 辰

月影もさうせ路は月影の並 元武

月影もさうせ路は月影の並 昌把

月影もさうせ路は月影の並 宗光

月影もさうせ路は月影の並 吉則

月影もさうせ路は月影の並 昌次

月影もさうせ路は月影の並 加傳

月影もさうせ路は月影の並 親信

月影もさうせ路は月影の並 吉延

月影もさうせ路は月影の並 真定

月影もさうせ路は月影の並 友巳

月影もさうせ路は月影の並 宗朋

月影もさうせ路は月影の並 孝治

月影もさうせ路は月影の並 武新

見流物の上よりあはれ秋の 月 光保

呑酒やかたふかしの輝け月 月 宗友

酒徳利明りもまじく望月 月 安之

月よ又我身一掃ほりか 月 久利

隈あぢを天弓抱えさるる 月 太雅

酒を垂れたる人の真意は

月影を世うし文酒し意酒 月 不意

ほく杖や月影の影を空に 月 易心

園乃月影ありて後や空に 月 義重

月よ心ひかかふ中を名流 月 延久

あはれもあはれ月影の 月 宗弘

天井を走はし月影の 月 武乾

むこ山の月影は輝け 月 賢中

あはれ月影は嵐火あはれ 月 宗友

芳野山てふる月影 月 玄仲

後方々月影をう海を 月 不及

肉月影はぬき海乃 月 孫明

丸き月影は目加を 月 綱和

月よ雨や月影は 月 全勝

夕景の生駒乃 月 政安

武彦形月影 月 吉之

見多人も天の 月 吉任

月影中を桂男 月 業行

伊集院四

十六

師今まふ月を待格乃作は

玄仲

月此精の出入金此ひやふ

三寛

月の亮といふことを

星流の精晴るる清る月此色

吉毫

清い三月を隠さぬ月此

正則

石と云ふは是明徳の月此

玄仲

五のつましく後やま行

勝太

雲の傍の月や世界のあり

元次

今朝のあつた月此又此

太知

月より雲東かふんは表紙

半閑

月此鬼志悲ひよりりり

重次

雲の袖かひる月此わよ

太知

入社の鐘は月出するより

正弘

月を身代寺の柱の端方

正守

月志るは名あるや身代

利

懐とも急が戒や胸此月

吟指

山越え難し月此あき

宗安

西の月此星やあやま

善若

一念や三子世界胸此月

玄佐

いつとも見ぬ朝の月此

善若

隠中此陽とやいふ月此

利之

雲此衣らしし麻子も星

定利

為雲此立定まふや物此

太知

月まめはちるる雲もは

三順

仁美野四

廿七

三升秋風子云の時升角工

よすの月とつ子顔うそ

月ハ一心彩や二の二三升殿 弟之住 自笑

手と打く鼓々浦此月乃乳 清房

奇と又姑も天よと月乃糸 友巳

嬌重あふて嬌よ月乃糸 喜次

浦杉もかろゆくと月乃糸 良雅

陰葉重あふ露月也つ志水 政次

月^{血ぬ}の雲よむのふ破る此乳 定保

血^ぬ翠今と月日よ月乃男松 不膚

入るも山よのてか^月整之林 石圃

山の原よ原と向も今^月彩出 延勝

海^月れ^月空念今今月^月母 慈覚

照月^月井^月権男^月や^月片^月か^月り^月の^月 寸松

月よ^月か^月ろ^月中^月は^月衣^月や^月今^月待^月す 如若氏 安成

月^月交^月ハ^月光^月と^月た^月の^月部^月ハ^月小^月 似雪

月^月毛^月と^月わ^月ら^月ハ^月八^月所^月大^月津^月吉^月 盛也

星^月あ^月よ^月と^月ら^月も^月時^月つ^月と^月推^月舎^月 貞常

実^月芝^月の^月稚^月方^月海^月り^月追^月居^月 實基

木^月か^月れ^月の^月月^月よ^月ら^月も^月人^月の^月や^月 会助

見^月る^月月^月乃^月杉^月区^月ハ^月好^月あ^月い^月ハ^月 加友

夕^月暮^月ら^月う^月物^月を^月と^月り^月好^月月^月乃^月糸^月 一画

名月 付九月十二夜

こよ丸のしと秋の月此巻向
 から月へさたりけりよと為氣
 おぬるや産前せ東子居月
 月の字も一々の字今巻
 ちら月第一口はも世世
 うりともはるを儲けし月
 見れぬ影ふ地ふ出り月
 打出か月の三又乃中
 見たりと名も改め月
 十四又布きしあけ月
 北女傳家
 二又三又中庸胸の
 二又三又
 守心抄の二又又や月

重春
 武次
 政安
 孫
 右
 元
 不
 後
 安
 三
 三
 同
 中
 三
 同
 友
 一
 志
 春
 異
 勝

笠下巻て解るいぬる子
 初巻も十又巻との月
 十又巻の巻しと名月
 三又巻の巻しと名月
 十又巻の巻しと名月
 十六巻も二八名月此巻
 本巻も今巻の月此巻
 至巻や二又の月此巻
 ひはる巻も月此巻
 名よ入る巻も月此巻
 巻拾ハ丸あけと名月
 守心抄の巻も月此巻

重春
 武次
 政安
 孫
 右
 元
 不
 後
 安
 三
 三
 同
 中
 三
 同
 友
 一
 志
 春
 異
 勝

月此月也今更其形以所
 名其月也月亦保のむ今更
 景云形三字中畧の名月也
 名月也天上之の形元服
 月今宵三又琥珀の光り
 年よりしを一宵のりたる
 今更三又又月此月也
 芋とたれと云のりたる
 めんのかさ名流中ら月也
 形てさくくいりたる月也
 新月を流す子老は云と云
 家く始りましていり月也

同
 用之
 未存
 威重
 玄法
 正光
 貞空
 正美
 二休
 加修
 宗友
 吉去

余病も今更けん解月
 づつと流す又も今更月
 浮る名も流と芋名月
 けりくと出る月乃芋名月
 多の今宵もつり月也
 星や子も今宵月也芋
 名月ハ流も上名ん今宵
 くら月やふんれと日流
 さまのよもくくは三又更月
 揚ま此月ハ流ハ唐の
 榎の木校也きうて今更月

吉則
 安治
 貞次
 美光
 武松
 依也
 室風
 宗弘
 曳白
 流流
 榎也

せよとみそくに

名もさす又起るきいずの月

加

今更なる月桂下まあ男

喜

月かえとちきりてゆき

美

ゆくり車まきりも淀川

一重

ゆめ月桂の花のそり咲

可雪

ゆめ月桂の君のそり咲

成清

大真六管枝とほまその月見

昌利

十三夜新玉津嶋とて

ありまき新月や玉津嶋

季忠

駒込

ゆてすめは菓るや心の駒込

三林

おぼろ月桂のしりふ小町

樹心

引しるは乃こはま名駒込

仍信

しら桂てあやや色を駒込

岡

岩角や香まけり此駒込

宗畔

まうりにつあき駒込後

友昌

放生舎

矢橋子もいさや放生八幡

親信

枯あてらやとちまよのそり

弘聖

いりやとやまてらるはけり

重因

初夜

初夜やわしはゆき波のほろけ

重相

初夜は只ちとるし目り

板人

是も釜てつり初産鯨小
初産は之料理を此に口小
松也

作美奈

花盛藤と八重身は銀葉り小
辻了死ん去る初産霊乃葉小
信能
二休

新酒 付 燗酒

新酒はきき一時乃盛花小
清きゆと流ぬ身乃新酒小
明彦
風松

新酒をよひんかふり
あつむる酒やまきれの下
文昭
利昌

あつむる酒やまきれの下
月小盛盛秋水中の新酒小
盛親
ふり松若

茶の森の押付志信乃新酒
加友

葛 付 葛

柳腰の赤葉香き葛系
成重

若葉系木と若葉の神小
若葉系系風うまゆり小
助友
宗畔

名木 柅

海おとやね葉の二葉八種小
まの松の吉まかぬ木とを
信彦
道彦

松して朱典重子とらこ様
紅葉は初産付れあまは様
政安

紙衣たつ松栴のりもり小
實のあははを後産し松小
好昌
守昌

海を海の時西へ極やか現 比 哲

いて名を布きぬるれおまや 比 友

風の音をききし柏枝は 比 素

心うきまはれまよ色む柏餅 比 業勝

色葉

夢浴てけぬときぬいらは 比 吉任

月桂をみあひのころま 比 友昌

手あまもかゝ涼のいろ 比 光通

と糸端足袋かゝと 比 乃白

茶椀のいろはのつま 比 自求

いろはのえかま初 比 改世

忠のまに來れし 比 俊家

きり 比 上琴

か 比 忠行

紅葉

お 比 季吟

江楓乃漢 比 利

と 比 仁世

ひ 比 資延

稲荷 比 信真

林 比 輝

志 比 美翁

ほ 比 好活

風 比 利

大盛に下戸の紅葉はのれ か 俊

時をきてあうまう人ゆふ山 山 細心

浮下しや思はれし 山 仍信

朱乙良の紅葉は 山 重信

男山乃とぬむや八幡聲 山 一頁

押りの海老は仲孫の 山 教昌

赤塚の紅葉は 山 田

尺のよそは 山 秋

約さうか 山 宗弘

浮城の紅葉は 山 元

あうまう乃 山 昌英

見 山 昌英

猿 山 吉之

猿さうて 山 同

小倉山の紅葉は 山 二休

海貨といふ 山 永心

とあし 山 志

け 山 政安

朱 山 同

村 山 照

強 山 吉長

い 山 有人

紅葉 山 吉

紅葉

針直此ぬ名袴此いり唐 久次

為時て出りりや日此風草 忠信

松茸や一樹の法の並やら 教昌

水さし精や一と勢小松茸 心平

さうり松の木法て捨す此松 皇天御 因

松茸此石つたの法や平松 皇天御 吉季

男子生けり人の好まき侍り 不忠

生流ゆあはれあやま世の松吹 因元

美の肉のゆゆりい草此良 加行

西乃故きん志あちう志あちう地 吉則

風草さうむらゆや猫せぬ 定友

侍付あまもほも握ひく風

重陽付菊酒

任勢此ぬ八品権さけ此ゆふ 吉因

あふらぬるさうけいれ菊此良 吉季

八重一重さあ丸九日や菊合 自幸

西よりや菊はけりその酒り酒 如戸

菊酒八の丸とせけくは 如戸

唐のさうさうや入りりも 友輝

唐鳴く菊の酒さ毎言借示 能政

花よ眠不胡蝶や菊は酒此 如 光心

志あちうちうさ露の滴さ菊の 如 盛勝

花化る男や菊の酒さうし 如 一念

さつふれりや菊の春車

先弘

下戸上戸はや咲か菊はけ

児玉

咲かばまゝもあはれ菊は酒

宗順

物もててやけぬる花風菊

瑞

酒とあはれ菊はまじりの中継り

正貞

詠所ののこるやの病は菊の

重次

思ふ此香と八拍の菊は酒

政安

飢へ六飽あま物よ菊は酒

先武

三子と砂やゆかちるうらた

仍信

おこるを存安も例や菊は

吉則

けをぬる花を菊は酒は袋

定久

のうらとちも存安は加を菊は

忠明

花のまをけしそ面白菊は

志志

狸く乃菊のやや酒は袋

以除

そはよ酒をちくもむ花は

同

あはれ菊は八星也千葉系

賀程

菊

銀星といふ名も今の菊の

吉昌

あや喜きくもさあ菊は

加計

はれ花や菊は酒の菊は

素後

あはれ天はけ風とさあ菊は

正貞

大白といふ名も折菊は

村

花は小町色いけさあ菊は

祐政

舟よりまて方角いふ星尺
 菖蒲やこゝろぬけは花の枝
 垣志ありて名をぬかして菖蒲
 作ちまひふ人よふかしの菖蒲
 日かひのつをほのそ菖蒲
 雲のきそへあやち菖蒲
 是ち又地より生しし星尺
 菖蒲をこれ敷けつゝ名を是れ
 位中もどめてうらんあま菖蒲
 色ぬも菖蒲は花檀や志れ
 花軍菖蒲はうやろし甲
 枯しとや好菖蒲うする菖蒲

春云
 悠知
 可
 吉則
 良雅
 古之
 吉成
 親信
 榮二
 加瘠
 吉自
 飛入

竹をまてよゆか世経のぬ
 加か菖蒲やあかた松乃中
 曾我菖蒲は花ととも菖蒲
 花や星よふもまろし今新
 葉多るや松のかうしし菖蒲
 日せ垣名ゆか竹をうれ菖蒲
 金菖蒲はあひぬ家此ゆか
 うつし菖蒲はゆか針乃星尺
 淨流きよめ我任は此星尺
 菖蒲は色は狐さしし
 長者留ふ所つゝ名をゆか金
 日か竹葉は小袖菖蒲我菖蒲

古掌
 有久
 宗徳
 吉昌
 上琴
 右好
 吉秀
 是石
 宜法
 武松
 吉盛
 政美

樹を沸くふもや菊樹此 同

木實

初よりやまの風味あま 松極 不卜

口あまて牙然を方地 水 信能

破見ても久しくほし 松極 教昌

忍引柳や木男はう 松 政安

け籠のかくま入や 松 同

もあまもこのか 柳 易心

あませし枝や 柳 信能

八やま河の 柳 定心

あまの 柳 定心

熱 柳 安治

あまの 柳 安通

う 柳 素物

芝 柳 琴

あま 柳 一帯

あま 柳 一帯

あま 柳 月久

あま 柳 正方

あま 柳 国見

あま 柳 同

あま 柳 成伯

あま 柳 順孝

あま 柳 加美

古きありてこそあはれ かき 加賀

なれ柑子すしの垣 かき 加賀

藪あふいては かき 加賀

昔あはれを かき 加賀

はるも かき 加賀

ありの かき 加賀

かろ かき 加賀

大あり かき 加賀

伊勢 かき 加賀

河棟 かき 加賀

河 かき 加賀

茶 かき 加賀

河 かき 加賀

河 かき 加賀

河 かき 加賀

河 かき 加賀

河 かき 加賀

河 かき 加賀

河 かき 加賀

河 かき 加賀

河 かき 加賀

河 かき 加賀

神あはれ神家の名をうたれ
志もくして上はわらふ事
林とて桂立候のまひり
露丸のち干秋の果あり
命八續ありとて志丹は
われぬる氣とてやせ飯
追^てもももあつ秋の夕
下ひや木末よりとて
加はるもすれはけり
飛あそびなきは例とせ
あふひてはた秋の夕
ゆてあつちりやとて

言ま
言初
縁
隣友
言ま
是考
月久
正則
吉長
友巳
後^人
二休

馬乃流は枝珊瑚の橋
吹うに秋の夕ややれ

政安
元辰

五七五

五七五

